

II-5 平成30年に「まちだクリニック」で経験した病死・検死の死因の検討

○町田光司^{1, 5, 6} 町田祐子¹ 松本一仁² 寺田明功³
長谷川範幸^{4, 5, 6} 高橋識志⁷

(社団医療法人白鷗会 まちだ内科・眼科クリニック¹ まちだ内科・眼科クリニック板柳分院² 五所川原てらだクリニック³ 国民健康保険 板柳中央病院⁴ 青森県警察医会⁵ 青森県死後画像研究会⁶ 弘前大学医学研究科法医学講座⁷)

平成25年、死因身元調査法が施行されて以来、当院での死後画像診断(Ai)は増加の一途を辿り、平成30年には200例を超えた。尚、病死は年間100例で推移しているため、この単年度での死因について比較検討した。

平成30年1月～12月までに経験した313例(病死107例、検死206例)の死因を検討した。病死では、心臓死が63例(59%)、誤嚥性肺炎9例、呼吸不全2例、誤嚥性窒息死2例、脳梗塞2例、脳出血2例、多臓器不全13例、DIC5例、癌死9例であった。検死では心臓死が107例(52%)、感染症17例、脳血管障害22例、糖尿病6例、自殺4例、他殺2例、誤嚥性窒息死2例、癌死は3例で、その他事故死等40例であり、外因死が疑われた場合には検死が必須と考えられた。

この中で、糖尿病は病死13例(12.1%)、検死28例(13.5%)で、両者共ほぼ同様であったものの、検死206例中、事故死の40例を除いた166例中で検討すると、糖尿病は28例(16.9%)と高く、年齢別では60代が12名(43%)と最も多く、40代1名、30代1名であり、これらの年代が半数を占めていた。

また、病死13名の糖尿病患者中、80代6名(46%)、90代4名(31%)、70代2名で、60代はわずかに1名(8%)と、60代での死亡者の割合は検死と病死の間に有意差が見られた。

糖尿病の未治療、治療中断、低血糖などの問題があると考えられるため、今後の対策が必要と考えられた。